



YBHD NEWS No.59

株主通信

2019年11月



株式会社 横河ブリッジホールディングス

証券コード:5911



平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
ここに株主通信「YBHD NEWS」第59号をお届けいたします。

我が国経済につきましては、高水準の企業収益や雇用・所得環境の改善が続いているものの、米中貿易摩擦の長期化の懸念などによる世界経済の減速に伴う輸出低迷、また、日本国内における度重なる台風や大雨等の自然災害などにより、先行きの不透明感が増しております。

橋梁事業につきましては、当期は大型新設工事の発注件数が少なく、厳しい事業環境が続いておりますが、受注量は確保できております。業績につきましては、豊富な手持ち工事が概ね順調に推移し、橋梁事業の上半期としての実績は過去最高とすることができました。

エンジニアリング関連事業のうち、システム建築事業の業績につきましては、前期からの不振が残っているものの、当第2四半期の後半からは回復軌道に乗り始めてまいりました。景気減速が懸念されますが、客先からの引合いは依然として多く、9月からの新工場稼働開始と合わせて、本格的な業績回復を果たしてまいります。

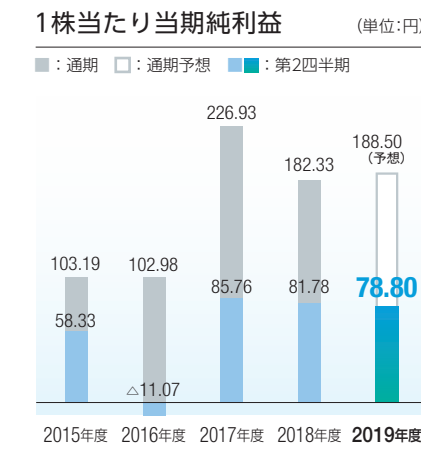
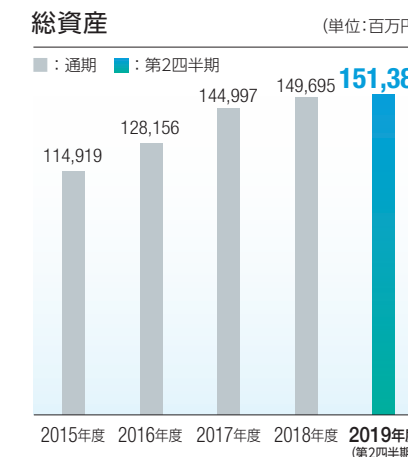
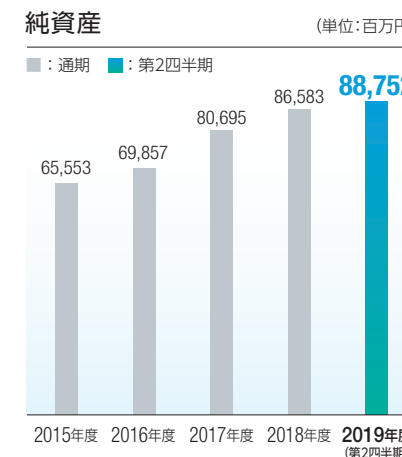
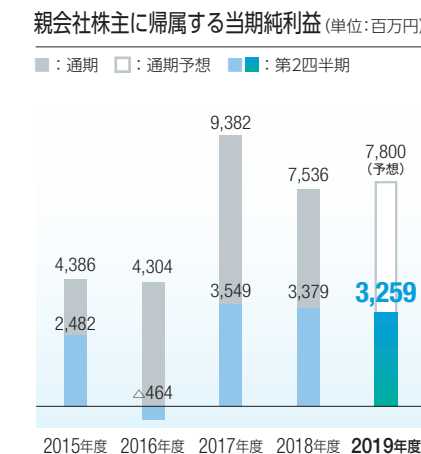
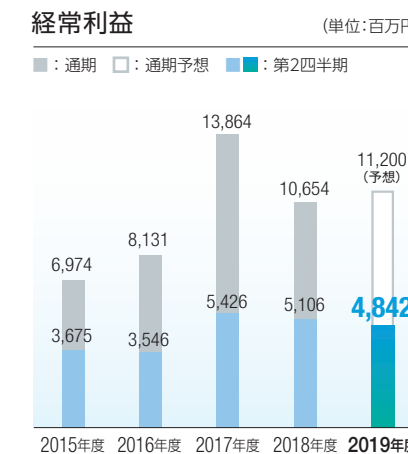
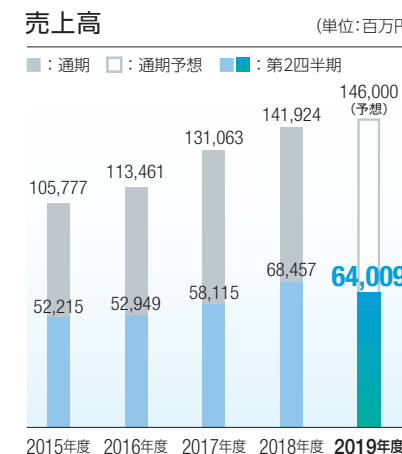
先端技術事業のうち、情報処理事業につきましては、新道路橋示方書への対応が高く評価され、好調であります。6月に新工場が竣工した精密機器製造事業につきましては、市況の低迷から当期の損益はやや低調に推移しております。一方、次なる成長に向けた諸施策を講じており、事業拡大の準備が整ってまいりました。

これらの結果、売上高につきましては、全体的に当初予想を下回りましたが、営業利益、経常利益、四半期純利益につきましては、橋梁事業の損益改善が進みましたため、当初予想を上回りました。

厳しい事業環境が続きますが、グループの総力をあげて、株主の皆様のご期待に応えられますよう努力してまいりますので、引き続き倍旧のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2019年11月

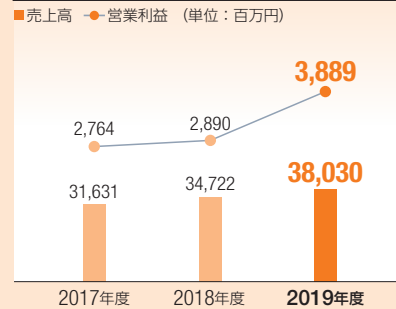
- 橋梁事業** 受注高は年度計画に対し約55%の達成率。売上高、営業利益は共に前年同期比増となり、上半期として過去最高の業績。
- エンジニアリング関連事業** システム建築事業の不振の影響が残ったことにより、受注高、売上高、営業利益いずれも前年同期比減。
- 先端技術事業** 精密機器製造事業の需要が伸び悩んだため、受注高、売上高、営業利益いずれも前年同期比減。



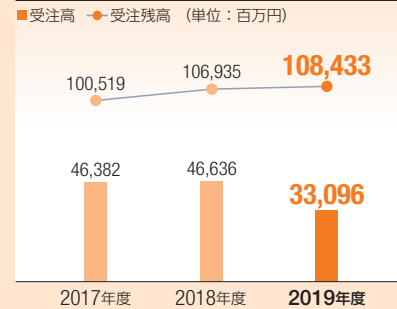
橋梁事業



売上高／営業利益【第2四半期比較】



受注高／受注残高【第2四半期比較】

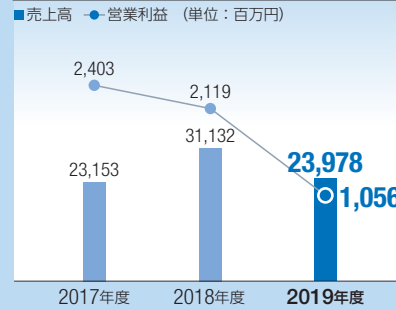


- 高速道路会社発注の大型工事の受注ができました他、民間案件、国土交通省及び地方自治体案件、保全工事などの受注を重ねました結果、当第2四半期累計期間における橋梁事業の受注高は年度計画に対し約55%の達成となりました。業績につきましては、概ね順調に推移し、売上高、営業利益共に前年同期を上回り、上半期として過去最高の業績とすることができました。
- 通期の業績は、売上高860億円、営業利益78億円と予想しております。

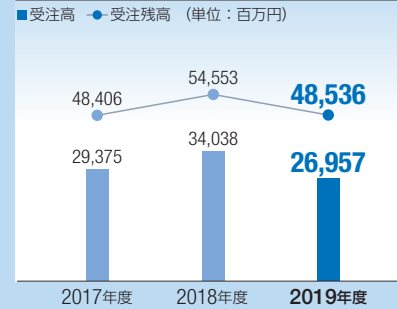
エンジニアリング
関連事業



売上高／営業利益【第2四半期比較】

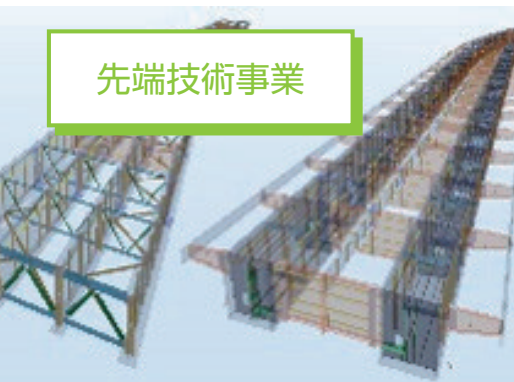


受注高／受注残高【第2四半期比較】

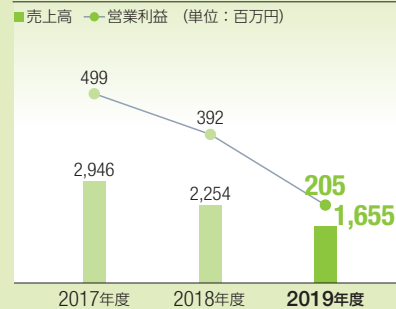


- トンネルセグメントを一定量受注することができましたが、システム建築事業の受注も伸び悩みましたため、受注高は前年同期を下回りました。業績につきましては、土木関連事業の生産量の減少に加えて、システム建築事業の不振の影響が残ったことにより、売上高、営業利益共に前年同期を下回りました。
- 通期の業績は、売上高560億円、営業利益38億円と予想しております。

先端技術事業



売上高／営業利益【第2四半期比較】



受注高／受注残高【第2四半期比較】



- 精密機器製造事業の需要低迷が続き、受注高は前年同期を下回りました。業績につきましても、受注の減少により売上高、営業利益共に前年同期を下回りました。
- 通期の業績は、売上高33億円、営業利益4億円と予想しております。

橋梁点検と長期保全のための アルミ合金製常設足場



キュウサ®



前身は、2012年に販売開始した
アルミ合金製「KERO」(ケーロ)

当社が販売しているアルミ製品は、土木・建築向け製品に注力している株式会社住軽日軽エンジニアリングと共同で開発しました。長年の経験と実績に基づき、橋梁の維持管理費の低減と長寿命化対策に応えられる製品です。

2012年には橋梁の維持管理のため、定期点検を5年に1回行うよう法令で定められました。橋梁点検は近接目視で行うため、地上から近づけない場合には橋梁点検車や検査路が必要です。この検査路として、耐久性が高く、軽量のアルミ合金製の検査路「KERO」(ケーロ)を2012年に開発しました。2017年にはNEXCO3社の設計要領でアルミ検査路の様子が掲載され、これ以降販売数も増加しています。



高島深沼橋(東北中央自動車道・上下線)工事に使用された「KERO」

須賀沢橋(中国自動車道の高架橋・兵庫県)に使用した「KERO」。開通後約35年の橋に後から設置した。

「検査のための足場」で「道路下面の構造部材を覆う」
画期的な新製品「cusa」(キュウサ)登場！

検査路は多種桁形式の橋梁上部構造の場合には多く必要になり、検査路よりも検査のための常設足場を設置するほうが合理的な場合があります。

また、道路下面の構造部材を覆い、橋梁の劣化を防ぐということが橋梁の長寿命化に貢献できると考え、アルミ合金製の常設足場「cusa」を開発しました。

瀬戸大橋を構成する橋のうち、櫃石島高架橋に設置した「cusa」。30年経過した橋への設置で、現在工事中。



下を走る列車にも影響はほとんどなく、「cusa」の中で工事を進められます。

cusa(キュウサ)の内部



橋梁工事現場のニーズ
「近接目視」に合わせて構造

「cusa」は近接目視点検や補修作業が可能、橋梁構造物から剥落物の受け止めが可能、橋梁の劣化因子を遮断でき、塗装の塗替えを無くすることができるなど、多数のメリットがあります。特に鉄道上を交差する道路橋では道路管理者と鉄道施設管理者の双方にメリットがあり、この分野の営業を強化しています。

このような状況の中、瀬戸大橋の一部であるコンクリート高架橋で「cusa」が採用されました。道路橋の下に鉄道が走る2層構造の橋梁で、アルミ常設足場設置工事を実施中です。2019年には首都高速道路の恒久足場設計要領に「cusa」の仕様も掲載され、今後の販売量増加が期待されます。



システム建築事業、新たなステージへ 「茂原工場」完成で 生産・出荷を2倍に

生産能力拡大のため、昨年8月に茂原工場の建設に着手しましたが、このほど竣工し、今年9月より操業を開始しました。茂原工場は鉄骨製作専用の工場です。千葉工場と合わせた鉄骨生産能力は現在の倍となり、事業拡大に伴い品質確保とコスト縮減を図ります。

敷地は千葉県が茂原市に造成し分譲した、

塗装・出荷ヤード棟



にいある工業団地の工場用地19haのうち11.3haを占めています。圏央道の茂原北インターチェンジに近く、材料の入荷製品の出荷に便利だけでなく、既存の千葉工場とは圏央道経由で50分で繋がっており、両工場連携による相乗効果により効率的な運用が図れます。敷地内の建物は、もちろん当社のシステム建築です。工場棟は東西220m、南北100mの大型建物です。塗装・出荷ヤード棟は近い将来には倍の大きさになりますが、現在は東西120m、南北40mで、増築する南側は壁がなく、建物の構造を外からでも見ることができます。



事務所棟



客先からの人気も高い事務所棟を含めシステム建築のショールームさながらの状態です。



工場棟

工場内は大空間スペースに、物流や作業動線を考慮し生産設備を配置しており、設備自体も安全・品質・効率性を考えた最新鋭の設備を導入しています。



8月29日の竣工式にはご来賓として県・市の幹部の方々にもお越しいただき、地域への貢献と当社の将来への期待を込めて祭事を執り行いました。システム建築事業の新たなステージに向け満を持しての始動です。

四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

	前期末 2019年3月31日現在	当第2四半期 連結会計期末 2019年9月30日現在
資産の部		
流動資産	94,180	90,319
固定資産	55,514	61,065
有形固定資産	29,884	36,078
無形固定資産	953	1,027
投資その他の資産	24,676	23,958
資産合計	149,695	151,384
負債の部		
流動負債	45,358	39,612
固定負債	17,754	23,019
負債合計	63,112	62,632
純資産の部		
株主資本	77,924	80,532
資本金	9,435	9,435
資本剰余金	10,185	10,185
利益剰余金	61,997	64,552
自己株式	△ 3,693	△ 3,640
その他の包括利益累計額	6,341	5,807
非支配株主持分	2,317	2,412
純資産合計	86,583	88,752
負債純資産合計	149,695	151,384

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

四半期連結損益計算書

(単位:百万円)

	前第2四半期 連結累計期間 2018年4月1日から 2018年9月30日まで	当第2四半期 連結累計期間 2019年4月1日から 2019年9月30日まで
売上高	68,457	64,009
売上原価	59,343	55,075
売上総利益	9,114	8,934
販売費及び一般管理費	4,094	4,189
営業利益	5,020	4,745
営業外収益	285	258
営業外費用	199	160
経常利益	5,106	4,842
特別利益	3	94
特別損失	10	24
税金等調整前四半期純利益	5,099	4,912
法人税等	1,593	1,555
四半期純利益	3,505	3,356
非支配株主に帰属する四半期純利益	125	97
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,379	3,259

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前第2四半期 連結累計期間 2018年4月1日から 2018年9月30日まで	当第2四半期 連結累計期間 2019年4月1日から 2019年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,692	9,611
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 5,003	△ 6,014
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 714	△ 1,348
現金及び現金同等物に係る換算差額	9	△ 9
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△ 4,015	2,239
現金及び現金同等物の期首残高	23,224	24,414
現金及び現金同等物の四半期末残高	19,208	26,654

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

会社概要

社名	株式会社横河ブリッジホールディングス
所在地	〒108-0023 東京都港区芝浦四丁目4番44号 TEL:03-3453-4111(代表)
資本金	9,435百万円
主な機能	経営戦略、法務・監査、経理・財務 総務・人事、IR・広報、技術研究開発

役員一覧

代表取締役社長	藤井 久司
代表取締役常務	高木 清次
取締役	宮本 英典
取締役	高田 和彦
取締役	大島 輝彦
取締役	小林 明
取締役	北田 幹直(社外取締役)
取締役	亀井 泰憲(社外取締役)
常勤監査役	荒渡 薫
常勤監査役	廣川 亮吾
監査役	志々目 昌史(社外監査役)
監査役	八木 和則(社外監査役)
監査役	西山 重良(社外監査役)

株式の状況

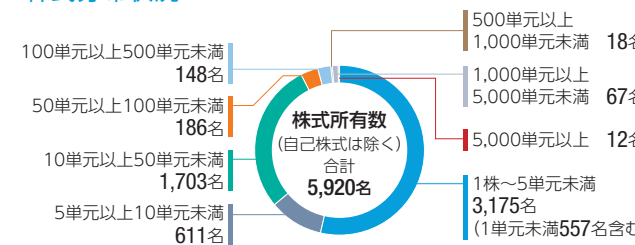
発行可能株式総数	180,000,000株
発行済株式総数	45,564,802株
株主数	5,921名

大株主(上位10名)

株主名	所有株数 (千株)	持株比率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	3,563	8.59
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口)	2,571	6.20
横河電機(株)	2,234	5.39
日本製鉄(株)	1,987	4.79
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口9)	1,355	3.27
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口5)	736	1.77
住友不動産(株)	674	1.62
BBH/SUMITOMO MITSUI TRUST (UK)LIMITED FOR SMT TRUSTEES (IRELAND)LIMITED FOR JAPAN SMALL CAP FUND CLT AC	631	1.52
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505103	625	1.50
横河ブリッジホールディングス従業員持株会	564	1.36

(注) 1. 当社は、自己株式を4,108,649株保有しておりますが、上記大株主からは除外してあります。
2. 持株比率は自己株式を控除して計算しております。

株式分布状況



株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
配当金 交付株主確定日	毎年3月31日、なお、中間配当を行う場合は、 毎年9月30日
定時株主総会	毎年6月下旬
単元株式数	100株
株主名簿管理人および 特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 〒100-8233 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先 電話お問い合わせ先	東京都杉並区和泉二丁目8番4号 〒168-0063 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)
公告方法	電子公告により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
公告掲載URL	http://www.ybhd.co.jp/



表紙の写真

夢舞大橋

所在地：大阪府大阪市
鋼量：3,418 t (当社グループ施工分)
型式：旋回式浮体橋

2025年の国際博覧会(万博)開催が決まった大阪で、会場となる「舞洲」とその北側に位置する「舞洲」の間にかかる夢舞大橋は、世界初の旋回式浮体橋です。
夢舞大橋が位置する大阪市の湾岸エリアは、万博のほか、カジノを含む統合型リゾート(IR)の誘致も進み、ますます注目のエリアとなりそうです。

YBHDグループ



株式会社 横河ブリッジホールディングス
グループ全体の経営管理



株式会社 横河ブリッジ
橋梁・橋梁関連製品・土木・建築・保全・精密機器製造



株式会社 横河システム建築
システム建築・開閉式建築システム・環境



株式会社 横河NSエンジニアリング
橋梁・橋梁関連製品・セグメント



株式会社 橋崎製作所
橋梁・水処理・環境製品・鉄構製品



株式会社 横河技術情報
情報処理サービス・ソフトウェア開発



株式会社 横河ニューライフ
不動産管理・情報システム・人材派遣



株式会社 ワイシーイー
橋梁等構造物の総合エンジニアリング



Yokogawa Techno Philippines, Inc.



株式会社 横河ブリッジホールディングス

〒108-0023 東京都港区芝浦四丁目4番44号
TEL. 03-3453-4111 (代表) <http://www.ybhd.co.jp/>

